

## はじめに

日本における男声合唱の重鎮、多田武彦先生は、2017年12月12日、多くの男声合唱ファンに惜しまれながらご逝去されました。筆者は2009年12月、多田武彦<公認サイト>を開設し運営してまいりましたが、その間多田先生からはさまざまなご指導をいただきました。あらためて感謝申し上げます。

本書では、多田先生が遺された著書『合唱音楽に関する効率的練習方法』、『アンサンブル上達のための練習方法』、『西洋音楽の指揮に関する提言』、『山田耕筰先生からの薫陶』をあらためてご紹介し、多田武彦合唱講習会などで得られた合唱音楽の理論や実践方法を再確認する機会となることを願っています。

また、日本における男声合唱大会の歴史を総括しました。日本で最初に合唱が演奏されたのがいつかは、はっきりとわかってはいないようです。先駆的な労作である『日本の合唱史』（戸ノ下達也・横山琢哉編著：青弓社 2011）によれば、キリスト教が日本に伝来した16世紀に、豊後府内（現大分県）で聖歌隊が歌ミサを上げたとされており、これが最初に演奏された合唱だったのでしょうか。

本書は、これまででない「男声合唱大会のガイドブック」を目指しました。埼玉が全国に先駆けて「おとうさんコーラス大会」を立ち上げたのは1990年のことでした、その後、関東支部全体に発展拡大し「関東おとうさんコーラス大会」となり、幹事県が関東を一巡したところで役目を終え、埼玉があらたにスタートさせた「彩の国男声コーラスフェスティバル」に切り替わりました。全国的には埼玉に続いていくつかの大会が開始され、現在に至っています。その流れを俯瞰することも本書の大きな目的のひとつです。このようなことを通して「男声合唱のいま」を考える機会になれば幸いです。

本書が扱う範囲は、1973年に始まった第1回日本男声合唱協会（JAMCA）演奏会以降の男声合唱についてです。現時点で把握できるものは一応網羅し、現在の男声合唱界の全体像が浮かび上がるようにまとめてみました。

また、新型コロナウイルス感染症がパンデミックとなり、合唱に限らず音楽芸術分野は未曾有の厳しい制限下に置かれています。そのような状況でも、感染防止に創意工夫を重ねながら果敢な取り組みをしている団体も少なからずおり、その方たちの声を発信しつつ、感染防止対策について共に考えるために2020年4月より『おんがく広場』という情報紙を発行し、多くの方々にご参加いただいています。コロナ禍の終息を願いつつ、執筆をさせていただきました。

2021年6月 著者

# INDEX

- 1 はじめに
- 2 INDEX

## 多田武彦先生追悼集

- 6 多田武彦先生ご逝去  
多田武彦先生は2017年12月12日ご逝去されました。慎んでご冥福をお祈りいたします
- 8 多田武彦<公認サイト>  
筆者が運営する多田武彦先生の公認サイト／多田先生のテキストや関連資料などを掲載
- 13 多田武彦メッセージ集  
主に関学グリーリサイタルのプログラムから多田先生のメッセージ73件を収載／新月会名誉会員・牛尾孝氏編集
- 30 多田武彦合唱講習会2005  
2005年男声合唱プロジェクトYARO会が開催／北海道から九州まで全国の男声合唱ファン180人が埼玉に集結
- 42 多田武彦 男声合唱曲集  
1973年第1集発行／その後30年かけて第8集まで出揃った

## 多田武彦先生著作集

- 47 合唱音楽に関する効率的練習方法 改訂第三版 (2011年3月23日)
- 59 アンサンブル上達のための練習方法 (2012年11月18日)
- 71 西洋音楽の指揮に関する提言 (2013年5月22日)
- 82 山田耕筰先生からの薫陶 (2014年1月31日)

## 全国の男声合唱

- 87 全国主要男声合唱大会総覧  
全国各地で行われている男声合唱大会の総まとめ／歴史と開催状況が一目でわかる
- 97 男声合唱大会の草分け  
日本男声合唱協会JAMCA  
1973年日本で最初に男声合唱大会を開催した団体／「じゃむか通信」の発行や資料提供など精力的な活動を展開
- 100 男声合唱プロジェクトYARO会  
埼玉県の男声合唱5団体が大同団結したプロジェクト／イル・カンパニーレ、コール・グランツ、ドン・キホーテ、あんさんぶるポパイ、メンネルA.E.C.

## INDEX

- 123 男声合唱団ヴィヴ・ラ・コンパニー YARO会の新たな試み／有志で構成するユニット／全日本男声合唱フェスティバルに第3～6回まで連続出演
- 131 関東おとうさんコーラス大会  
(元おとうさんコーラス大会) 埼玉発祥のおとうさんコーラス大会が関東へ拡大した大会／2015年彩の国男フェスに切り替わり大会は終息
- 141 彩の国男声コーラスフェスティバル 関東おとうさんコーラス大会の幹事県が関東支部を一巡し終了／それに代わるものとして埼玉で始めた新たな男声合唱大会
- 145 全日本男声合唱フェスティバル 全日本合唱連盟が2010年に開始した全国規模の男声合唱大会／2020年第8回長野大会はコロナ禍で幻となった
- 
- 163 男声合唱のバイブル  
グリークラブアルバム グリークラブアルバム1～3がリニューアルされ、グリークラブアルバムCLASSICとNEXTとして刊行／新時代のレパートリーとして期待されている…
- 165 バーバーショップ・ハーモニーの魅力 アメリカンポップスを中心に歌う男声四部合唱／独特のパート編成とエンターテインメントの要素に特徴がある
- 170 新型コロナウイルス感染症の猛威  
全日本合唱連盟ガイドライン 2020年6月20日第1版策定、同11月26日第2版、2021年6月7日第3版が出された／合唱活動の指針となっている
- 171 ポストコロナの合唱活動を考えよう  
合唱の未来のために 2020年4月千葉敏行先生が管理人となって開設された2200人以上参加するfacebook公開グループ／活発な意見交換が行われている
- 177 コロナ禍から生まれた『おんがく広場』 2020年4月創刊の音楽情報紙／70人ほどの合唱指導者や合唱人の投稿を収載／PDF版と画像の両方で公開している
- 183 参考資料 関連WEBサイト
- 184 あとがき
- 185 著者プロフィール

## 多田武彦先生ご逝去

男声合唱仲間のあいだでは、多田武彦先生に親しみを込めて「タダタケさん」と呼んでいました。タダタケさんは、日本中の男声合唱愛好家に惜しまれながら2017年12月12日ご逝去されました。享年88歳でした。

タダタケさんは男声合唱一筋といってよいほど男声合唱曲を中心に作曲活動を続けられました。作品の数はウィキペディアによれば、113個の組曲があり、そのうち95個が男声合唱組曲です。曲数は全部で719曲に上るといわれ、多くは日本の抒情に心を寄せた独特の世界観に基づくもので、低年齢層とくに高校生や大学生にも愛され歌い継がれているのは意外な思いがします。

タダタケさんがご逝去されたことは、故人の遺志を受けられたご遺族により伏せられ、詳しいことがわからないまま年を越してしまいました。はじめは、12月19日に音楽之友社がツイッターに情報を上げましたが、何らかの事情ですぐに削除されてしまい、憶測だけが膨らんでゆくような状況になりました。

筆者は、即座にタダタケさんのご自宅に何度も電話しましたが、留守電設定のままどなたもお出になりませんでした。多田武彦 <公認サイト> を運営している立場でもあるので、なんとか事実関係を把握したいとの思いからFaxも送りましたが、けっきょくなにも返事がありませんでした。ご自宅を訪問するわけにもいかず、残念だがご逝去が事実ならご冥福をお祈りするしかないと悶々と過ごすだけでした。

正式な多田武彦先生ご逝去の報せは、明けて2018年1月8日、熊本県立劇場で行われた「なにわコリアーズ」演奏会においてご遺族からの手紙を公表する形で行われました。以下に手紙の全文を紹介します。

突然のご報告をお許してください。

多田武彦は、12月12日永眠致しました。故人の遺志により葬儀は親族で済ませております。

生前 故人が賜りましたご厚誼に感謝申し上げます。長い間作曲家として活動することができましたのも多くの方々のご支援を賜りましたお蔭と申します。故人の生涯は本当に幸せでございました。旅立ちを静かに送って頂きますようお願い申し上げます。

皆様へのご報告が遅れましたことをお詫び申し上げます。故人から

雨のおとが きこえる 雨がふっていたのだ。  
あのおとのように そっと世のために はたらいていよう。  
雨があがるように しずかに 死んでゆこう。



## 多田武彦<公認サイト>

「もしもし、作曲の多田です」

多田先生から電話をいただくと最低でも1時間、長いときは2時間ほどかかることは覚悟しなければなりません。多田先生は、音楽の話はメールや手紙では伝えきれないからと、必ずといってよいほど電話をかけて来られました。

お話が楽曲に及ぶと電話口で歌って聴かせ、具体的に解説するのがつねでした。そこでメモ用紙の用意は欠かせませんでした。

多田先生とのお付き合いは、2003年11月、男声合唱プロジェクトYARŌ会第1回ジョイントコンサートで5団体の合同演奏として組曲『富士山』を取り上げたときから始まり、その後いろいろやり取りするなかから筆者が管理運営する**多田武彦<公認サイト>** ↓が生まれました。

<http://www.max.hi-ho.ne.jp/rkato/>

公認サイトには、『多田武彦略歴』、『座右の銘』や、折りに触れて書かれた『合唱音楽に関する効率的練習方法』、『アンサンブル上達のための練習方法』、『西洋音楽の指揮に関する提言』、『山田耕筰先生からの薫陶』などの著作を掲載しています。

また、「関西学院グリーンクラブ演奏会プログラム」から多田先生のメッセージ多数を収集した『作曲家多田武彦メッセージ集』（新月会名誉会員・牛尾孝さん編集）は、とても貴重な資料です。

# 作曲家多田武彦メッセージ集

新月会名誉会員の牛尾孝さんが、関西学院グリークラブリサイタルを中心とした演奏会プログラムから、労を惜みず丁寧に収集されたタダタケさんのメッセージ集が**多田武彦<公認サイト>**に掲載されています。その中からいくつか紹介します。

多田武彦  
×  
関学グリー

## 編集して思う事 新月会名誉会員 牛尾 孝

2017年も押し迫った12月20日、突然作曲家多田武彦氏が亡くなられたとの情報について大阪の知人（多田先生出身の京大合唱団の後輩OB）から問い合わせが飛び込んできました。すぐにいろいろな方々に信憑性を確認した結果、ほぼ間違いのない情報だとわかりました。最終的には大阪にお住いの多田先生のご親族に確認することができ、確かに12月12日に逝去されていたことが確認できました。この事実にしばらく何もできず茫然としていましたが、私なりに何かできることはないかと思い、関西学院グリークラブ関係プログラムを電磁媒体化していたことで作曲家多田武彦として大変多くのメッセージを見て来たので、それらを集めてメッセージ集を編集することにしました。

対象にした演奏会は以下のとおりです。

1. 関西学院グリークラブリサイタル
2. 関西学院グリークラブフェスティバル
3. 新月会ならびにその他関西学院グリークラブが関わる演奏会
4. 東西四大学合唱演奏会
5. 東西四大学OB合唱連盟演奏会
6. 交歓演奏会（同志社グリークラブと関西学院グリークラブ）
7. 関西六大学合唱演奏会プログラム
8. 林雄一郎先生、北村協一先生に関わる演奏会

いずれの演奏会プログラムも作曲家多田武彦としてメッセージが収録されているものだけを抽出し、それらを演奏会開催年月日順に並べ、演奏会ごとに演奏会プログラムの表紙、演奏内容、メッセージを収録しました。このメッセージ集を編集して感じることは、多田武彦氏がいかに関西学院グリークラブならびにその指導者の方々に信頼し、敬愛し、尊敬していたかがよくわかります。

メッセージは1959年から2015年までの57年間に72件も寄稿していることがこれを証明しています。メッセージは作曲家多田武彦としての合唱に対する姿

昭和35年(1960)	関西学院グリークラブ 第28回リサイタル
1/22、23	大阪毎日ホール/神戸国際会館



組曲「雪明りの路」を書いて

多田武彦

去年、私が関学グリークラブの依頼で組曲「中勘助の詩から」を書いた時、その動機の一つとして関学グリークラブの数少ない短所を補うべく……と云うことを云った。具体的に云うとそれは摸まぬ練習、安定したハーモニー、見事なアンサンブル等の数多い長所の裏側で若干放置され勝ちな「抒情的表現」と云うことであつた。実際には周知の通り、組曲「中勘助の詩から」に於る関学グリーの演奏は方々で絶讃を博して居たし、私自身もこれ程円熟した演奏を今まできたことはない程であつたが、詩や曲の要求する抒情性には今一步と云う所が足りなかつた。

関学グリーのファンである私は依頼を受けて今年も組曲を完成したが、やはり、いや、前組曲以上に強い抒情性と色彩美を要求する組曲を書いて了つた。

こうした組曲を毎年手掛けられることによつて、関学グリーの演奏の上に新しい発展的一面と伝統が生れてくれれば、これ程嬉しいことはない。

(昭和35年1月 東京にて)

関学グリー第27回リサイタルに引き続き翌1960年の第28回リサイタルでは、組曲『雪明りの路』が演奏されています。この曲は「抒情性」と「色彩美」を求めて関学グリーのために創作されたもので、タダタケさんはまだ富士銀行（現みずほ銀行）在職中の日曜作曲家でした。

昭和44年(1969)	第18回東西四大学合唱演奏会
6/21、22	東京文化会館

男声合唱組曲『雨』について 多田武彦

雨は、人間にとっては、随分と親しい間柄である。そのうっとうしい自然現象

# 多田武彦合唱講習会2005

全国から180人参加  
若い人との交流も…

2005年、作曲家の多田武彦先生を埼玉（大宮・サイサンKSホール）にお招きして**多田武彦合唱講習会**を開きました。講習会では、『富士山』から「**作品第肆**」(第4)を例題として、ご自身が書かれたテキストや音源を用いて進められました。

川<sup>かわづら</sup>面に春の光はまぶしく溢れ  
そよ風が吹けば光たちの鬼ごっこ  
葦の葉のささやき  
行<sup>よし</sup>行<sup>きり</sup>子は鳴く  
行<sup>よし</sup>行<sup>きり</sup>子の舌にも春のひかり

……



北は北海道から南は九州まで全国から180人の男声合唱ファンが集まりました。じつは、男声合唱プロジェクトYARO会第1回ジョイントコンサートの直後からこの企画は持ち上がっていたのですが、その後実現までに思いのほか手間取り、ようやく2年後に開催することができました。

そもそも、タダタケさんがYARO会の『富士山』をお聴きになって、意外(?)なうまさに驚かれたのが発端でした。YARO会の長所をさらにメンバー全体に定着させることを実践すれば、短期間で飛躍的によくなる資質をもっている、そのためには理論と実践の両立が欠かせない。とにかく、もう一段レベルアップを図るためにアドバイスができる就多田先生かお話をいただいたのです。

そうとなれば、YARO会だけで聞くのはもったいない、全国の男声合唱仲間にお声がけしようとなりました。

講演は、多田先生が書かれた多田メソッドともいべき『**合唱練習の際の留意事項**』（のちに再整理し別途まとめ直しました）をテキストとして、多田先生みずから講演テーマに合わせ



な工夫ができたのに、と思い、それを、若い人たちに与える機会を作られているYARO会に頭が下がる思いでした。すばらしいことです。私は、川崎在住で、横浜勤務ですので、さすがに一緒に歌うというのは無理なのですが、また、何か機会がありましたら、顔をださせていただきたいな、と思いました。

---

《SAさん》 なかなか興味深い話が聞けて参考になりました。内容については、非常によかったと思いますので、特に申し上げることはございません。ただ、会場の響きがあまりよくないので、次は響きのいい会場でできるといいですね。それにしても、昨日だけのためにテキストや音源を用意した訳ではないんでしょうが、敬服します。

---

《OMさん》 このところの体調不良により、せっかくのお誘いに伺えず大変残念であり、また本当に申し訳ありませんでした。代わって参加いただいた方より先ほどお電話があり、とても有意義であったとの報告をいただきました。

遠路参加された方を含む会場一杯の参加者（女性は4、5人だけだったとか？）で、YARO会の企画運営力に感嘆されておりました。多田武彦先生の指導法も他の芸術家とは一風代わったところがあり、これも大変勉強になったとか。その方は、同志社、リーダークランツコールトキオの指導もしております。また、私も大



変驚いたのですが、今日の多田先生のお話の中に、リーダークランツのコンサートでの草野心平作品の朗読に触れた部分があったとか。この朗読者は西村正平という演出家であり、その方の歌の弟子、そして私の句会を通しての親しかった友人でもあります。もし彼のことであったのなら、多田先生とその方と私と、ご縁がほんの少し・・と思うと、とても嬉しいことでした。今後も埼玉での活動を通し加藤さまや音楽のお仲間と何かしらご縁ができるのではと思っております。

---

《TMさん》 土曜日は、お疲れ様でした。大変な盛況でこちらも圧倒されました。昨日は早速の返信メール有難うございました。私も色々感じる所がありました。早速書き込みしたいのですが、PCがまだら惚け状態でかないません。とりあえずお礼まで。これからもよろしく願います。

---

《KTさん》 今日は本当にありがとうございました。多田さんにもご挨拶できましたし、本も5冊売れましたし、後輩のトンペイ・メモリアルズのメンバーにも会えましたし、皆さん方のいろいろなご意

さんぼがらす  
YARO 会 三羽鳥 誕生



会計・関根盛純さん  
男声あんさんぶる「ポパイ」



司会を務める筆者  
男声合唱団コール・グランツ



団内指揮者・須田信男さん  
男声合唱団メンネルA.E.C.

## 素顔のタダタケさん

タダタケさんが美味しい天ぷらをご馳走するというので、関根さんと筆者は待ち合せの宿の天國てんくにへ向かいました。明治十八年創業という老舗です。2012年11月のことでした。

開店の11時よりすこし早めに行きましたが、先生はすでに店の前の椅子に座っておられました。最高級の胡麻油であげた天ぷらは、香ばしさとさっくりした歯触りがこの上ない逸品でした。先生はお茶だけ、われわれは遠慮なく生ビールをいただきました。お預かりしていた<公認サイト>用の原稿についていくつかやりとりしましたが、そのほかの時間はほとんど先生お一人で話しておられました。音楽の話は全体の四分の一ほどだったでしょうか。

食事を終え、店の出掛けに店員さんに頼んで記念写真を撮ってもらおうとしたところ、先生は映画監督を志したこともあったというだけに、構図や角度などいろいろ注文を付けておられました。それを横で聞きながら、先生は何にでも並々ならぬ思い入れをもって対処されるのだと実感しました。これが作曲活動にも通じていることはまちがいありません。

また、今でも思い出すエピソードに、多田武彦合唱講習会のあとの慰労会の料理の一件があります。会場は京懐石の店、先生を囲んで役員とともに会食を行いました。ところが、すべて同じコース料理を注文しておいたのに、先生のテーブルには厚焼き玉子と少々の付け合わせしか並べられていませんでした。これには全員唖然としましたが、先生はご自分の体調や食事管理のことから、先廻りをして店に別メニューを注文されていたのです。かねて自分は虚弱体質だからと、健康管理にはずいぶん気を使っておられました。

# 全国主要男声合唱大会総覧

全国にはいくつもの男声合唱大会があります。最も古いのは1973年に始まった日本男声合唱協会（JAMCA：じゃむか）主催の**日本男声合唱協会演奏会**でしょうか。

それから17年後の1990年、埼玉の**おとうさんコーラス大会**と青森の**青森県男声合唱フェスティバル**がスタートしています。さらに1995年**神奈川男声合唱協会演奏会**、1999年**バツカスフェスタ「関西男声合唱祭」**、**男の合唱まつりinみやぎ**、2001年**東京男声合唱フェスティバル**、ずっと遅れて2010年**全日本男声合唱フェスティバル**がようやく始まりました。

各大会がどのような工夫をして男声合唱を盛り上げようとしているのか、改めて整理してみました。とりあえず全国横断的にまとめるには、文章ではなく表形式のほうが一覧できて分かりやすいのですが、そのためかなり横に長い表となってしまいました。



男声合唱大会は、県連などが主催するものから、県連とは関係なくまったく独自の組織として活動するものまであります。地域の男声合唱団が集まって連帯し、親睦を深めているケースもあることでしょう。開催時期や規模もさまざま、いろいろ紆余曲折や苦労話の歴史があります。

手始めにネット検索で各大会の情報収集を試みましたが、そう思うようには入手できないものです。そこで、各大会関係者にお尋ねしながらまとめあげたのが、次頁以降の一覧表です。誤りや不足していることがあるのではないかと危惧しています。また筆者が把握しきれていない大会もあるかも知れません。お気づきの点あるいはこの大会にはこんなアピールポイントもあるぞ、というようなご意見などいただけるとありがたいです。

※この一覧表は、2021年5月現在で、該当ホームページ等で確認できたものです。

祝創立20周年

ちょっとユニークな寄り合い合唱団

# 男声合唱プロジェクトYARO会



たまにはデッカイ演奏がしたい

2001年8月、新潟県魚沼市の小出郷文化会館で開かれた「関東おとうさんコーラス大会」の懇親会でのことでした。真夏の新潟、会場前の緑の芝生が敷き詰められた広場に、これまた熱い男たちが集まり、酒を酌み交わすうちに、いつも少人数で歌っているけど、たまには大人数の男声合唱をやりたいね、ジョイントコンサートでも仕掛けてみないか、という声があちこちから飛び交いはじめました。いつも小さな合唱団で歌っている合唱団メンバーにとって、大規模の男声合唱は高嶺の花だったのです。

社会で日々奮闘している健気なおやじ達が、みんなで力を合わせて質の高い男声合唱を埼玉の地に響かせようではないか。そんな話が一気に盛り上がり、あれよあれよという間にジョイントコンサートの企画実現に向けて突っ走りはじめました。あれから20年、人間でいえば今年2021年で二十歳を迎えます。

みんなでデッカイことやろう！

## 男声合唱プロジェクトYARO会立ち上げ

「総勢100名の男<ヤロー>どもが、ひとつデッカイことやったろうかい！」ということで、名前を募集したところ、男声合唱団コール・グランツの野口孝治さんから出された「YARO会」がもっとも人気を呼び、男声合唱団の集まりだから、男声合唱プロジェクトYARO会と名づけました。プロジェクトには、広範で意欲的な計画、もくろみ、企画という意味もあり、まさにわれわれの取り組みにぴったりのネーミングでした。

## 合同練習を一般公開

## 高校生も見学に参加 彩の国さいたま芸術劇場・大練習室

YARO会では、初の試みとして2005年11月、第2回ジョイントコンサートの合同練習を一般公開しました。果たしてどれだけの人に来てくれるやら見当もつかず、用意する椅子も様子を見ながら借りることにしました。本番ではないから誰も来てくれなくても、それはそれでいいだろうと観念していましたが、いざフタを開けてみれば、そんな心配が杞憂に過ぎなかったことがわかりホッとしました。

なんといっても嬉しかったのは、一般の方に交じって高校生が十数人も参加してくれたのです。若い人たちとの交流を願っているYARO会にとってこれ以上のことはありません。その年の2月に開催した「**多田武彦合唱講習会**」にも多くの高校生諸君が参加してくれました。YARO会の活動をつぶさに見てもらい、年齢を超えて共感しあえるものがあることを実感してほしい。勉強と両立しながらの音楽活動は、きっと彼らにとって無駄にはならないと信じます。



また公開練習では、タダタケさんがYARO会のために編曲して贈ってくださった新曲『**秩父音頭**』の指導にお出でになることもあり、筆者自身初めての経験となる「**初演**」を目指して興味が尽きないものとなりました。

『**秩父音頭**』は埼玉を代表する民謡です。県内の小学校などでも踊りとともに親しまれているポピュラーなものです。もともとは盆踊りで踊られる軽快なテンポですが、それをタダタケさんはゆったりとした重厚な雰囲気曲へと編曲されました。YARO会では第2回ジョイントコンサートのアンコールで初演しました。

合同練習は、団内指揮者の**須田信男**さん（メンネルA.E.C.指揮者）による発声練習ではじまり、ついで**大岩**先生による『**月光とピエロ**』の練習に入りました。2年前の第1回コンサートと比べて一段とアンサンブルが良くなっているのを感じました。一人ひとりが、自分の声を溶け込ませようという意識が醸成されてきた結果でしょうか。日頃自分の合唱団で歌っているままで、YARO会合同を歌ってもそう簡単には溶け

# 全日本男声合唱フェスティバル

Japan  
Choral  
Association

女声に遅れること33年…

ついに全日本男声合唱フェスティバル開催



第1回

全日本男声合唱  
フェスティバル  
inみやざき

The 1st JCA National Male Choir Festival

2010年11月28日[日]

メディキット県民文化センター (宮崎県立芸術劇場)  
アイザックスターンホール

主催 / (社) 全日本合唱連盟・朝日新聞社  
後援 / 宮崎県・宮崎市・宮崎県教育委員会・日本男声合唱協会・宮崎日日新聞社  
協賛 / 宮崎県芸術文化振興会  
協賛 / (株) みやざき観光コンベンション協会  
主催 / (社) 全日本合唱連盟九州支部・宮崎県合唱連盟



第1回全日本男声合唱フェスティバルinみやざきは、2010年11月27(土)～28(日)、おかあさんコーラス大会に遅れること33年目にしてようやく開催に漕ぎつけました。

当時の全日本合唱連盟理事長・浅井敬壹<sup>けいいち</sup>先生はプログラムの挨拶でつぎのように述べておられました。

「…歌う男たちの祭典、第1回全日本男声合唱フェスティバルが今日こうして歴史的な幕を開けます。日本各地から集まった男たちよ。思う存分、歌い、聴き、飲み交わそ

うではありませんか？ 口蹄疫問題で大変な時期であったにもかかわらず、今大会すべてを準備してくださった、片山理事長はじめ宮崎県合唱連盟の皆さんに、心から感謝申し上げます。…」

## 全日本男声合唱フェスティバルの歴史

		開催地	日程
平成22年(2010)	第1回	宮崎	11/27(土)～28(日)
平成24年(2012)	第2回	福島	12/1(土)～2(日)
平成26年(2014)	第3回	岡山	11/29(土)～30(日)
平成27年(2015)	第4回	京都	7/4(土)～5(日)
平成28年(2016)	第5回	高知	7/9(土)～10(日)
平成29年(2017)	第6回	小樽	7/8(土)～9(日)
平成30年(2018)	第7回	静岡	6/30(土)～7/1(日)
令和2年(2020)	第8回	長野	7/18(土)～19(日)
?	?	?	?

facebook

## 〔ポストコロナの合唱活動を考えよう〕

2020年4月開設

合唱の未来のために——千葉敏行先生

2020年4月25日、仙台で教職のかたわら指揮者活動を続ける千葉敏行先生がfacebookに〔ポストコロナの合唱活動を考えよう〕と名付ける公開グループを立ち上げました。



このグループは、公開するやいなや瞬く間にメンバーが1,500人を超し、2021年6月6日現在では2,253人にもなる大きなグループとなりました。コロナ禍に対して危機感を感じている合唱指導者や合唱人がいかにたくさんいるか、多くの方が情報交換を望んでいるかということの現れです。

千葉先生は、『合唱の未来のために』（2020年6月10日付）と題して、公開グループに託す思いをまとめ、facebookにアップすると同時に筆者のホームページにも掲載しました。提言は長文ですので、詳細は別途お読みいただくとして、ここでは骨子をお伝えします。

### 1 はじめに

#### 2 「ポストコロナの合唱活動を考えよう」グループ発足のときの方針

- ①練習再開に向けて ・小学校～高等学校の部活動再開・大学生サークルの再開・一般合唱団の練習再開
- ②練習再開までにはできること・自己研鑽・オンラインレッスン ・情報発信・情報交換
- ③練習再開したらやりたいこと
- ④ポストコロナを生き抜くには合唱団がすべきこと